



第4章 温室効果ガス排出量の削減目標

第1節 温室効果ガス排出量の将来推計

1-1 現状維持ケース(BAU)

将来的に見込まれる温室効果ガスの排出状況を考慮するために、今後追加的な対策を見込まないまま推移した場合にあたる現状維持ケース（BAU）の温室効果ガス排出量について推計します。温室効果ガス排出量と相関の大きい人口などを活動量として設定し、直近年度における温室効果ガス排出量に活動量の変化率を乗じることで推計します。

なお、将来推計の対象年度は、計画最終年度の2030（令和12）年度としました。

現状維持ケース排出量 = 直近年度の温室効果ガス排出量 × 活動量の変化率

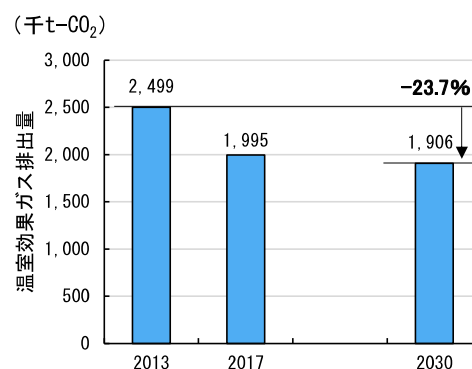
$$\text{活動量の変化率} = \frac{\text{対象年度における活動量の推計値}}{\text{直近年度における活動量}}$$

◆現状維持ケース（BAU）の推計における基本事項

種別	部門		活動量	推計手法
エネルギー起源二酸化炭素	産業部門	製造業	製造品出荷額等	過去の実績値が不連続に変化しているため、直近年度における値で推移するものとして推計
		鉱業・建設業	就業者数	近年の実績値が横ばいで推移しているため、直近年度における値で推移するものとして推計
		農林水産業	水稻作付面積	近年の実績値は微減傾向で推移しているが、直近年度では変動がないため、直近年度における値で推移するものとして推計
	業務その他部門		床面積	近年の実績値が横ばいで推移しているため、直近年度における値で推移するものとして推計
	家庭部門		人口	「高知市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に基づく人口推計
	運輸部門	自動車	貨物	貨物車保有台数 近年の実績値が横ばいで推移しているため、直近年度における値で推移するものとして推計
			旅客	旅客車保有台数 人口と同様の割合で推移するものとして推計
		鉄道	営業キロ数	近年の実績値が横ばいで推移しているため、直近年度における値で推移するものとして推計
		船舶	入港船舶総トン数	近年の実績値が横ばいで推移しているため、直近年度における値で推移するものとして推計
その他ガス	廃棄物分野	焼却処分	焼却量	人口と同様の割合で推移するものとして推計
		排水処理	衛生処理人口	人口と同様の割合で推移するものとして推計
	農業分野		水稻作付面積	近年の実績値は微減傾向で推移しているが、直近年度では変動がないため、直近年度における値で推移するものとして推計
	燃焼の燃焼分野		自動車保有台数	人口と同様の割合で推移するものとして推計

1-2 現状維持ケース(BAU)における将来推計結果

2030（令和12）年度における現状維持ケース（BAU）の温室効果ガス排出量は、1,906千t-CO₂となり、基準年度である2013（平成25）年度と比較して23.7%（約593千t-CO₂）削減する見込みとなりました。



◆現状維持ケース（BAU）の温室効果ガス排出量

ガス類		2013年度 (基準年)	2017年度 (現状年)	2030年度 (目標年度)	
		排出量実績値 (千t-CO ₂)	排出量実績値 (千t-CO ₂)	排出量予測値 (千t-CO ₂)	基準年度比
二酸化炭素	産業部門	358	357	357	-0.2%
	業務その他部門	870	560	560	-35.6%
	家庭部門	666	509	455	-31.6%
	運輸部門	536	502	473	-11.8%
	廃棄物部門	53	50	45	-14.8%
小計		2,482	1,978	1,890	-23.8%
メタン		10	9	8	-15.6%
一酸化窒素		7	8	7	-2.5%
合計		2,499	1,995	1,906	-23.7%

※端数処理により合計等と一致しない場合があります。